

21 Jun. 2013



第44号

JAAGA だより

日米エアフォース友好協会
Japan-America Air Force Goodwill Association

発行：日米エアフォース友好協会

〒162-0842 東京都新宿区市谷
砂土原町 1-2-34 KSKビル3F

編集：J A A G A 事務局

印刷：ヨシダ印刷株式会社

ホームページ：http://www.jaaga.jp

平成25年 JAAGA 総会開催

平成25年度 JAAGA 総会が5月9日（木）、グランドヒル市ヶ谷において、講演会、懇親会とともに開催された。

【総会】

平成25年度の年次総会は、15時から1時間余にわたり開催された。正会員総数244名の内、出席者62名、委任状提出者158名であり、会則の規定により総会は成立し、審議等が進められた。

開催に先立ち、昨年度ご逝去された故小松利光氏、故山田良市氏、故榎本隆氏の御冥福を祈り黙祷を捧げ、会長挨拶、議案審議、新役員の紹介、新顧問

等々の委嘱、退任者の紹介の順で実施された。

吉田正会長からは「JAAGA の設立以来17年目に至り、空自と米空軍との相互理解及び友好親善を推進し、日米両国の信頼関係の向上に貢献する」とした設立目的に十分合致した活動が鋭意なされている。予断を許さぬ北東アジアの情勢下にあって、先般、沖縄の反米感情が高まった際は『沖縄を含む日本のサイレント・マジョリティーは日米安全保障の重要性を十分に理解している』旨のレターを JAAGA から在沖縄の米空軍指揮官に送付した。幸いにして、前第5空軍司令官のフィールド空軍中將は国防



President Yoshida delivers an opening address at the JAAGA Annual Convention on May 9, 2013

総省の空軍司令部 A3/A5として米国国防政策の中
枢を担い、現第5空軍司令官アンジェレラ空軍中將
は5回の日本勤務を有する知日派の将官であり、日
本の国内状況をよく理解してくれている。空自と米
空軍、ひいては日米両国の信頼関係の醸成が今まさ
に必要とされており、JAAGAの目的の真価を問わ
れている時と言える。JAAGAの真摯な活動実績は
米空軍側にも着実に伝わっており、本年度もその努
力を誠心誠意進めていきたい」との挨拶があった。

続いて、議案審議に移り、平成24年度事業報告、
同決算報告及び監査報告並びに平成25年度事業計画
及び同予算に関する各々の議案について担当理事か
ら説明があり、いずれも提案通り承認された。また、
JAAGAの活動に係る各種の検討すべき事項につい
て意見が交わされた。最終議案として、役員の選任
が行われ、副会長、監事、顧問、新任理事等の新年
度の役員が選出された。最後に、新旧役員の紹介と
顧問委嘱が行われ、各役員には暖かい拍手が送られ
た。

【講演会】

第5空軍司令官兼在日米軍司令官サルバトーレ・
アンジェレラ空軍中將による講演が16時半から18時
までの間、「東アジアの安全保障環境への米軍の対
応と国防予算削減の影響」の演題で実施された。

＜演題に基づく講演＞

冒頭、JAAGAが設立された1996年に、第5空軍
司令官の副官として日本での最初の勤
務をした時から現在に至る間の日本と
5空軍及び司令官の交流が披露され、日
米同盟の関係を前進させるJAAGAの
活動に対し敬意と感謝が述べられた。

本論においては、半世紀を超える日
米同盟が北東アジアのみならずアジア
地域全体の平和と安定に寄与してきた
経緯を振り返るとともに、併せて、大
規模災害、人道支援等の多種多様な活
動も含め、多国間による共同対処の枠
組み構築の重要性を語った。

具体的な内容としては、2012年のオ

バマ政権による国防戦略指針により、経済成長の著
しいアジア太平洋地域に軸足を置いたりバランスが
推進されようとしているが、在日米軍においても、
日米間の緊密な連携のもと、安全保障の取り決め強
化、日米間で合意された各種再編の実施、相互運用
性の向上等が喫緊の課題であると述べた。同時に、
米国国防予算は大規模な削減計画の渦中にあり、各
種の施策により、予算削減下にあっても空軍の活動
の柔軟性を確保し任務を継続していくと語った。

このような状況下にあって、特に、広大で多様な太
平洋地域の安定に資するため、多国間の共同対処は
極めて重要であり、コープノース・グアムの共同訓
練が日米の二国間から、日米豪へと発展し、今回、
人道支援・災害救難訓練活動に韓国がオブザーバー
参加した事を意義深い事例として紹介した。更に、
弾道ミサイル防衛、沖縄オスプレー配備、横田・座
間における日米指揮調整機能の強化も、日米間の信
頼に基づく緊密な連携がベースとなると語った。

結びとして、今後、アジア太平洋地域の明るい未
来が進展するためには、関係各国が相互に理解を深
め尊重し共に平和的關係を築く思いを高め合う事が
緊要であり、日米同盟はその中核となると述べ講演
を終えた。

＜聴講者との質疑応答＞

講演の後、質疑応答の時間となったが、和気あい
あいとした雰囲気の中で司令官の日本に対する想い



Lt. Gen. Angelella makes a speech at the JAAGA Annual Convention on May 9, 2013



JAAGA, JASDF and USAF members attended the 5th Air Force Commander's Speech

が語られた。

まず、現下の情勢における中国との関係については、緊密な日米同盟が存在する事を踏まえた上での米中関係である事を、先般のデンプシー統合参謀本部議長のアジア歴訪と併せて語った。

国防予算削減の過程にあって活用すべき新たなテクノロジーに関する質問に対しては、ISR が極めて有効であり、初期投資は高額となるが統合された情報の共有機能は費用対効果において着目すべきキー・テクノロジーであると述べた。

米軍内における空軍と他軍種との関係については、空自と米空軍の良好な関係と同様、信頼関係は緊密な人間関係に基づくものとして、陸軍、海軍、海兵隊のカウンターパートとの人間関係をユーモア溢れる語り口で紹介した。「各々、時に異なった見解を持ち意見対立もあるが、その際、自分自身が見逃してしまった重要事項に気付く事も多い」とし、この点は空自との関係においても全く同じだと経験を吐露した。

米軍基地と日本の周辺自治体等の関係の質問については、各在日米軍の基地司令に対して、積極的に周辺自治体の方々とふれ合い日本文化の理解に努める様に話しており、自分自身も機会を捉えて交流を深めていきたいと述べた。

日米交流に係る質問に関して、聴講者の御婦人から「今後の日本はどうしたらよいのか。日本の友人として語ってほしい」との問いかけがあり、次の様な司令官の真情を交えた日本に対する想いが伝えられた。

「私は都合5回の日本勤務をしましたが、今回は家族と日本とのかかわりをお話しします。妻は最近も空幕長や総隊司令官の奥様、その他の空自の御婦人達と日米夫人プログラムを通じ、日本の文化、習慣について貴重な経験をさせていただいています。娘や息子は三沢の幼稚園時代や横田のハイスクールで過ごした頃を大変なつかしいものとし、日本語も少し話せます。息子は現在大学で学びかつ留学生を教



JAAGA President Yoshida presents a gift to Lt. Gen. Angelella, commander of 5th Air Force

える立場にありますが、休暇時に本人のみならず大勢の友達を連れて来日しました。日本の文化に対する熱い想いを大勢の友人に共有させたかったのです。妻は天ぷら、娘はラーメン、息子は寿司が好物ですが、私はそれら全てが大好きです。

最近、富士山が世界遺産に登録され、2020年の東京オリンピック招致活動も盛り上がってきました。お尋ねの御質問に答えさせていただくならば、日本の方々は自信を持って、日本の自然や文化をどんどん発信していく事が大切だと思います」この応答に、満場和らいだ情感が醸し出されその余韻を残しつつアンジェレラ司令官との質疑応答は終了した。

【懇親会】

懇親会は18時15分から約1時間半にわたり、200名近い関係者が集まり実施された。航空幕僚長片岡晴彦空将、補給本部長吉岡秀之空将、幹部学校長吉田浩介空将、航空幕僚監部等の関係者、米空軍からは第5空軍司令官兼在日米軍司令官サルバトーレ・アンジェレラ空軍中將、第5空軍副司令官ジェリー・ハリス空軍准将、横田基地関係者そしてその他の来賓が出席して盛大な懇親会となった。

冒頭、日米両国の国歌吹奏の後、吉田会長から「JAAGA が設立された目的は空自と米空軍の間の相互理解と信頼を深めるため各種の活動を通じて貢献していこうとするものでした。この目的に即して本日の懇親会では、旧知の方も、初めてお会いになる方も胸襟を開き、おいしい料理とお酒を食しながら、日米間のフレンドシップをさらに深めてくださ



President Yoshida and Lt. Gen. Angelella have a pleasant conversation

い。本宴席における御挨拶は会長たる私からのみとさせていただきます。大いに楽しんで良い思い出を作っていただければ幸いです」との英語によるスピーチがあった。

今回は初めての試みとして、より親密な懇親の場を設けるため、会長の挨拶以外は全て自由な懇談の時間とされ、会が進むにつれて「北東アジアの安定」「各種共同訓練の成果」等のやや硬めの話題から「SPORTEX 等のゴルフ談義」「日本の国内旅行」「家族の近況」「日米夫人プログラム」等の和やかな話題まで、硬軟併せた懇談の輪が会場各所で作られた。予定の2時間弱の宴はたちまち経過し、司会進行の閉会アナウンスに係らず、最後までフレンドシップの熱醒めやらぬ懇親会となった。

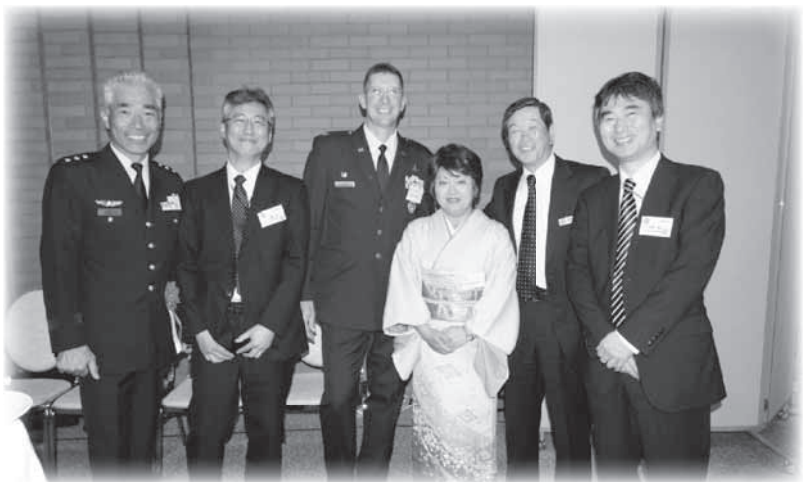
(杉山理事記)



Generals of the JASDF to hear the greeting of President Yoshida. L-r: , Gen. Kataoka, Lt. Gen. Yoshioka, and Lt. Gen. Yoshida



USAF, JASDF and JAAGA members to hear the greeting of President Yoshida



USAF, JASDF and JAAGA members mutually enhance the friendship at the social gathering JAAGA Convention

グアムにおける日米豪共同訓練参加隊員を激励

1月9日（水）午後、永岩理事長及び上田、渡部理事が航空総隊司令官齊藤治和空将に、織田、長島、杉山理事が航空支援集団司令官廣中雅之空将に、それぞれグアムにおける日米豪共同訓練に参加する隊員に対する激励品及び会長のメッセージを手交し、訓練の成功を祈念した。齊藤司令官からは、「本共同訓練に対するJAAGAからのご支援感謝します。南西域での実任務を実施しつつの訓練ではありますが、厳しい状況にあっても隊員

の士気は非常に高いものと認識しており、この激励品及び会長のメッセージを部隊指揮官にしっかりと伝え、隊員の更なる士気高揚に努めさせて頂きたい」旨の、廣中司令官からは、「航空支援集団による共同訓練の実施内容も年々深化しており、本訓練を通じてさらなるステップアップを図っていきます。JAAGAからの御支援を感謝し、この激励品及びメッセージを部隊指揮官に渡し、激励支援の想いを伝えたい」旨の感謝の意が寄せられた。

訓練は展開・撤収を含み1月14日（月）～2月27日（水）に間実施され、第3航空団、第83航空隊、警戒航空隊及び第1輸送航空隊から、F-2×8機、F-15×6機、E-2C×3機、C-130H×2機、KC-767×2機、及び人員約435名が、米国グアム島アンダーセン空軍基地、ファラロン・デ・メディニラ空対地射場、



Air-to-air refueling exercises of KC-767 and F-15, JASDF

北マリアナ諸島テニアン島及び同周辺空域において防空戦闘訓練、戦闘機戦闘訓練、電子戦戦闘訓練、空対地射爆撃訓練、空中給油訓練、人道支援・災害救援訓練及び戦術空輸訓練を実施した。なお、日米豪の人道支援・災害救援訓練は空自として初めての参加であった。

訓練終了後、航空総隊訓練実施部隊指揮官新井田能之1等空佐、及び航空支援集団訓練実施部隊指揮官富田清香1等空佐から、JAAGA宛ての礼状が届いた。その中で、両訓練実施部隊指揮官から、「列線で働いている隊員は、非常に強い紫外線に照らされ、火傷ではないかと思われるくらい日焼けをしながら連日遅くまで勤務しており、かなり疲労がたまっているとの報告を受けておりましたので、彼らの要望を聞き、JAAGAから頂いた支援品は、ス



Then JAAGA Chairman Nagaiwa, Directors Ueda and Watanabe call on Lt. Gen. Saitoh, Commander of Air Defense Command, in Yokota AB on Jan. 9, 2013



Then JAAGA Directors Orita, Nagashima and Sugiyama call on Lt. Gen. Hironaka, Commander of Air Support Command, in Fuchu AB on Jan. 9, 2013

ポードリンク等の飲料と加給食という形で現場の隊員に支給しました。また、合わせて、訓練に先立って頂きました激励文を隊員に紹介させて頂きました。これらにより、隊員の士気も大きく高揚し、



L-r: Lt. Gen. Masayuki Hironaka, Commander of Air Support Command, JASDF, Gen. Herbert Carlisle, Commander of Pacific Air Forces, USAF, and AIRCDR Anthony Grady, Commander of Air Combat Group, RAAF

結果として今回の CNG の訓練の成功につながったものと確信しています」との感謝の意が寄せられた。

(杉山・渡部理事記)



Relief goods unloaded from C-130H during the HA/DR training

平成24年度日米下士官相互部隊研修を支援

平成24年11月15日（木）、永岩理事長及び長島、山本理事が空幕人事教育部長宮川正空将補を、平成25年1月25日（金）、堀副理事長及び米沢会員、杉山理事が第5空軍副司令官ジェリー・ハリス空軍准将をそれぞれ表敬し、平成24年度日米下士官相互部隊研修を激励するとともに支援品を手交した。

本研修は、平成7年度に開始されて以来18年目を迎えており、JAAGA としては、これまで空自及び第5空軍に対して激励品を手交するという形態で支援してきているところ、平成24年度からは、空自に対する支援については、各受け入れ部隊で実施される歓迎会又は送別会を JAAGA 主催で開催するという形で支援することとなった。



Then JAAGA Chairman Nagaiwa, Directors Nagashima and Yamamoto call on Maj. Gen. Miyagawa, Director, Personnel And Training Department, ASO, in Ichigaya on Nov. 15, 2012

宮川人教部長からは、「日米相互理解に大変重要な研修であり、年々充実してきている」との説明とともに、「継続した JAAGA からの現場への支援を大変有難く思っている」との御礼が述べられた。ハリス副司令官からは、「整備、消防、警備等の現場において中核となる下士官の相互交流は米空軍にとっても大変有益であり、相互の理解・友好親善に大きく貢献している」との本研修に対する理解が示され、同席した第5空軍先任下士官ダグラス・マッキンタイア空軍上級曹長からは「相互研修での空自隊員受け入れを光栄に感じます。有意義な交流に出来る様に努力するとともに、JAAGA の支援を感謝します」との御礼が述べられた。



Then JAAGA Vice Chairman Hori, Directors Sugiyama and Yonezawa call on Brig. Gen. Harris, Vice Commander of 5th Air Force in Yokota AB on Jan. 25, 2013

平成24年度の日米下士官相互部隊研修は、同一特技の職場において行われ、米軍人の研修は、平成24年11月27日～12月6日に那覇基地で、空自隊員の研修は、平成25年2月5日～13日に米軍三沢基地、平成25年2月19日～28日に米軍嘉手納基地、平成25年3月21日～3月27日に米軍横田基地でそれぞれ実施された。

空自那覇基地では、第83航空隊で、航空機整備、火器管制装置整備、機上無線整備、武器弾薬及びエンジン整備の各職場で米軍嘉手納基地の下士官8名の研修が実施された。日米交流の一環として実施された日米対抗ソフトボール大会やバスケットボール大会、日本文化の理解を深めてもらうことを目的として休日に実施された史跡研修で交流を深めた。

米軍三沢基地では、第35戦闘航空団で、航空機整備、機上電子整備、地上無線整備、エンジン整備、輸送及び武器弾薬の各職場で空自隊員8名の研修が実施された。米空軍の演習中にも関わらず、研修初日には第35戦闘航空団先任下士官ジェームズ・ロー

レン空軍上級曹長による日米交流の重要性についての講話が実施された他、米軍組織の理解をさらに深めるため、各特技の職場だけでなく他の職場の研修も実施された。

米軍横田基地では、第374空輸航空団で、補給、通信、飛行管理、救命装備品整備、有線整備、計器整備及び衛生の各職場で空自隊員8名の研修が実施された。特に、3月26日には、空自准曹士先任新井岳志准空尉と在日米軍先任下士官兼第5空軍先任下士官ダグラス・マッキンタイア上級曹長とが日米相互部隊研修の状況を視察し、日米の隊員を激励した。

米軍嘉手納基地では、第18戦闘航空団で、航空機整備、飛行管理、高射操作、ヘリコプター整備及び総務の各職場で空自隊員8名の研修がそれぞれ実施された。特に、今回初めて空自総務特技員のPA(儀典部)研修が実施され、また、嘉手納基地内新聞「ブリテン」でも空自総務特技員のさまざまな活躍や日米の交流が紹介された。

全ての研修において、交流が円滑に進むよう研修初日にアイス・ブレイカーが、また交流が一層深まるよう研修終了前日にはフェアウェル・パーティーが開催(空自那覇基地でのアイス・ブレイカーは、JAAGA主催)された。中でも横田基地で実施されたフェアウェル・パーティーは、サヨナラ・ボーリング大会と兼ねて行われ、日米の研修者をはじめ日米各先任が参加するとともに、最後のプレゼント交換では、空自隊員が英語でスピーチするなど、おおいに交流が深められた。

なお、平成24年度の日米軍人の空自部隊(美保基地、



JASDF and USAF NCOs enjoy Bowling at the farewell party of exchange Program at Yokota AB



JASDF and USAF service members who took part in the exchange programs in Kadena AB on February, 2013



JASDF and USAF NCOs who took part in the exchange programs (Medical team) in Yokota AB on March, 2013



JASDF and USAF NCOs who took part in the exchange programs (Readiness Squadron) in Yokota AB on March, 2013

浜松基地) 研修のうち、浜松基地での研修は米軍側の都合により取り止めとなったが、美保基地での研修は平成25年6月13日～18日に実施(アイス・ブレー

カーはJAAGA主催) される予定である。

(山本理事、杉山理事記)

平成24年度日米優秀隊員表彰

平成25年2月、平成24年度JAAGA日米隊員表彰式が、那覇、入間及び三沢の空自基地において実施された。本表彰行事は平成10年度に開始されて以来

15回目の実施となり、表彰者数は総計103名(空自58名、米空軍45名)を数える。

—沖縄地区表彰式—



JAAGA Award Ceremony in Naha AB on Feb 1, 2013. 30 people, including President Yoshida, Lt. Gen. Sugiyama, Maj. Gen. Mashiko, and Col. McDaniel, attended the ceremony

平成25年2月1日(金)、平成24年度沖縄地区JAAGA表彰行事が航空自衛隊那覇基地で実施された。

表彰式及び懇親祝賀会は、空自那覇基地隊員クラブ「ブルー・コーラル」において、空自からは南西航空混成団司令杉山良行空将、第83航空隊司令兼那覇基地司令増子豊空将補以下11名、米空軍からは第18航空団副司令チャールズ・マクダニエル空軍大佐以下8名、那覇基地協力者として沖縄県防衛協会青年部会長根路銘敦氏、那覇基地協力会会長山田義範氏他2名、JAAGAからは吉田正会長夫妻、石津沖

縄支部長以下7名が出席し、総勢30名の参加者を得て開催された。

表彰式は、安藤義隆3等空尉以下19名の南西航空音楽隊による日米国歌の演奏で始まり、吉田会長が、JAAGA活動の意義、これまでの支援への感謝、平素のわが国の安全保障への貢献に対する日米両部隊へのお礼、そして本表彰行事に係る多くの関係者、特に那覇基地による積極的な協力、支援に対するお礼の言葉を述べ、その後、日米の隊員が表彰された。

24年度は、空自からは那覇救難隊の齋木尚1等空

曹、米空軍からは第18航空団のロバート・ミラー空軍上級曹長が表彰された。吉田会長は日米二人の被表彰者に表彰状と記念楯を授与し、その功績を祝福した。また、残波ロイヤルホテルに勤めているJAAGA 会員小川徳彌氏から同ホテル無料宿泊券2名分が副賞としてそれぞれの被表彰者に手渡された。その後、マクダニエル大佐と増子将補から祝辞があり、受賞者へのお祝いと敬意の言葉とともに、日米両国の協調がこの地域の安定と繁栄に寄与していること、そして空自と米空軍との絆の強化の重要性、受賞者の活動が仲間意識と団結強化に貢献したこと、家族の協力に対する感謝等を述べた。

表彰式後の懇親祝賀会においては、那覇基地太鼓

部による迫力ある和太鼓演奏が披露された後、益々の日米友好親善を祈念しての鏡割りが行われた。続いて、沖縄県防衛協会青年部会長の根路銘敦様氏の祝辞と乾杯の発声があり、日米出席者の和気藹々の祝賀会となった。受賞者挨拶では、齋木1曹が周囲の人々や家族の支えがあって受賞できたことへの感謝と、後輩を育て今後も日米友好の要石となる旨の決意を、ミラー上級曹長が受賞が名誉であること、相違点よりも共通点の多い日米両空軍の友好関係強化に今後とも頑張りたい旨の決意を述べた。

こうして平成24年度沖縄地区 JAAGA 表彰行事は受賞者を称える温かな雰囲気の中で幕を閉じた。

(小川理事記)

— 関東地区表彰式 —

平成25年2月15日（金）、平成24年度関東地区 JAAGA 表彰行事が航空自衛隊入間基地において実施された。表彰式は入間イン、懇親祝賀会は第2厚生センターにおいて、空自からは中部航空警戒管制団副司令尾関光彦1等空佐、防空指揮群司令日吉章夫1等空佐以下15名、米空軍からは在日米軍司令部 J4 ジョージ・マツサク空軍少佐以下7名、入間基地周辺協力者として、入間航友会会長荻野光男氏、入間基地青年同友会会長前島久尚氏、入間基地退職者雇用協議会副会長高野勝利氏他の計4名、JAAGA からは稲葉副会長以下5名が出席し、総勢31名の参加者を得て実施された。

表彰式は、坂田拓男3等空佐以下6名の入間基地軽音楽部“ZOOT36J”による日米国歌の演奏から始まり、稲葉副会長が、空自及び米軍の活動に対する謝意と平素の JAAGA 活動への支援に対する感謝、そして表彰行事に係る関係者、特に入間基地による

積極的な協力、支援に対するお礼の言葉を述べ、その後、日米の隊員が表彰された。

24年度の空自側受賞者は、防空指揮群の宮川仁司空曹長（横田基地）、電子開発実験群の上地忠善准空尉（入間基地）、米空軍側受賞者は、第374空輸航空団司令部のマイケル・プルーガ空軍大尉（横田基地）である。稲葉副会長は、日米の受賞者にそれぞれ表彰状と記念楯を授与し、その功績を賞賛した。表彰状授与時には宮川曹長と上地准尉のご家族も壇上に上がり祝福を受けた。その後、ジョージ・マツサク少佐及び尾関1佐から、受賞者を称えるとともに、日米同盟が一層重要になる中、強固な関係を築く上で相互の一層の信頼関係向上が不可欠であり、JAAGA が両者の架け橋になってくれるようお願いするとの祝辞が述べられた。

表彰式後の懇親祝賀会は、入間航友会会長の荻野光男氏の祝辞と乾杯で始まった。三人の受賞者から



JAAGA Award Ceremony in Iruma AB on Feb. 15, 2013. 31 people, including then Vice President Inaba, Col. Ozeki, Col. Hiyoshi, Kokubu, and Maj. Matsusaku, attended the ceremony

は、それぞれ、今回の受賞を光栄に思うこと、支えてくれた上司、同僚、家族への謝意、そして今後も一層日米関係強化のため尽力する旨の決意が表明さ

れた。こうして平成24年度関東地区 JAAGA 表彰行事は有意義かつ楽しい雰囲気の中で幕を閉じた。

(小川理事記)

—三沢地区表彰式—

平成25年2月22日、平成24年度三沢地区 JAAGA 表彰行事が航空自衛隊三沢基地において実施された。本表彰行事は、沖縄地区（那覇）、関東地区（入間）に引き続くもので、24年度最後の表彰行事であった。

表彰式及び懇親祝賀会は、三沢基地隊員クラブにおいて、空自からは北部航空方面隊副司令官小嶋信義空将補、第3航空団司令兼三沢基地司令城殿保空将補以下11名、米空軍からは第35戦闘航空団司令兼三沢基地司令のスティーン・ウィリアムス空軍大佐以下8名、三沢基地周辺協力者からは三沢市防衛協会会長山本昭三氏他3名の計4名、JAAGA からは香川副会長以下5名が出席し、総勢28名の参加を得て実施された。

表彰式では冒頭、香川副会長が挨拶し、日米の部隊の平素の活動に対する謝意、表彰行事の目的の紹介及び JAAGA の活動への積極的な協力、支援に対する謝意と今後なお一層の理解、協力をお願いについて述べた。

平成24年度の三沢基地における空自側受賞者は警戒航空隊の小林稔空曹長、米空軍側受賞者は第35戦闘航空団のブライアン・シャートレフ空軍曹長であった。香川副会長は、日米二人の受賞者にそれぞれ表彰状と記念楯を授与し、その功績を称えた。

ウィリアムス大佐は、二人の受賞者の功績を称えつつ、日米友好に努力している下士官達を名誉に思い頼もしく感じているとの祝辞を述べ、城殿将補は、受賞者へのお祝いの言葉とともに、三沢基地は日米友好を象徴する基地であり、友好親善に寄与した隊員を表彰してもらうことは、特に意義深いとの祝辞を述べた。

表彰式後の懇親祝賀会においては、三沢市防衛協会会長の山本昭三氏から、厳粛な雰囲気の中での受賞は受賞者にとって一生の名誉になるであろうこと、そしてそのことを心に刻んで欲しいとの祝辞とともに更なる友好親善を祈念しての乾杯の音頭がとられた。その後、日米の受賞者から挨拶があり、シャートレフ曹長は、高校時代の海外ホームステイの経験から国際交流に貢献したいとの思いがあり、三沢での国際委員会の役割は有意義であった旨の、そして小林曹長は、一緒に努力したシャートレフ曹長と共に受賞できたことが喜びであり、また支援してくれた仲間や家族への感謝の意を述べた。最後に丸山 JAAGA 三沢支部長からお礼の挨拶と乾杯の発声があり、平成23年度三沢地区 JAAGA 表彰行事は、有意義かつ温かい雰囲気の中で幕を閉じた。

(小川理事記)



JAAGA Award Ceremony in Misawa AB on Feb. 22, 2013. 28 people, including then Vice President Kagawa, Maj. Gen. Kojima, Maj. Gen. Kidono, Col. Williams, attended the ceremony

—受賞者及び功績の概要—

平成24年度 JAAGA 賞の受賞者の所属・氏名・功績等は下表の通りである。彼らの日米両エア・フォースの友好親善と相互理解の増進並びに日米両国間の友好基盤と信頼関係の構築への多大な貢献に対して表彰状と記念品を贈呈して顕彰した。

区分	所属部隊	受賞者	功績の概要
空自	警戒航空隊 (三沢)	 空曹長 小林 稔	平成24年度三沢基地准曹会会長として日米交流諸行事を積極的に企画立案し交流促進を図るとともに、日米共同安全運動を実施するなど日米間の相互理解と友好親善、信頼基盤の拡充に貢献
	電実群 (入間)	 准空尉 上治忠善	米空軍要人等の基地来訪時の説明資料作成、日米下士官相互交流時のスピーチ英訳、基地が実施する交流行事の際の通訳等業務を積極的に行い、相互理解の促進と友好親善の深化に貢献
	防指群 (横田)	 空曹長 宮川仁司	航空総隊横田移転事業に関し米軍との調整を綿密に実施し事業を円滑に推進させ日米共同運用体制構築及び米軍との信頼関係確立に貢献。移転後は円滑な基地の共同運営に努め、また日米レクリエーション行事等に積極的に参加し、相互理解及び信頼の向上に寄与
	那覇救難隊 (那覇)	 1等空曹 齋木 尚	米軍招待行事で企画運営を担当し、英語能力を駆使して家族を含めた日米隊員間の親睦を図り友好親善と信頼の向上に貢献。また日米共同救難訓練では米軍との連絡調整を密に実施して円滑な訓練の実施と多大な成果達成に寄与
米軍	第35戦闘航空団 (三沢基地)	 空軍曹長 ブライアン・シャトーレフ	三沢国際関係委員会委員長として、各種日米交流プログラムを成功裡に実施し日米の相互理解と友好親善を促進するとともに、三沢基地で実施された日米合同課程及びセミナーで空自隊員の指導教官として将来の下士官のリーダー養成に貢献するなど、信頼基盤の拡充と友好親善の促進に寄与
	第374空輸航空団 (横田基地)	 空軍大尉 ミハエル・ブルーガ	・航空総隊移転事業関連施設整備事業において米空軍を代表して諸調整にあたり、事業を円滑に推進させ、日米共同運用体制の構築に貢献 ・基地友好祭の企画運営担当として、友好祭を航空総隊主催の盆踊りとともに開催し約18万人の日本人来訪者を接遇し、航空自衛隊と米空軍の絆を深め、日米の相互理解と友好親善に貢献
	第18航空団 (嘉手納基地)	 空軍上級曹長 ロバート・ミラー	第18航空団の日米交流担当として空自との緊密な関係保持に尽力。特に空自の各種研修など日米交流事業に関与し各種ブリーフィング及び航空機展示説明等を担当して相互理解促進と友好親善に貢献。また、空自との間の各種共同訓練に関与し、良好な成果達成に貢献

SPORTEX'12B 開催

平成25年3月20日（水）春分の日、SPORTEX '12B が米軍多摩ヒルズ・ゴルフ・コースにおいて開催された。

事前調整会議の行われた3月14日（木）は風雨厳しく寒い悪天候であったが、競技当日は春の嵐も収まり曇り空ながら春の陽気に恵まれた。空自からは航空総隊司令官齊藤治和空将及び航空幕僚副長中島邦祐空将以下32名が、米空軍からは残念ながら第5空軍司令官サルバトーレ・アンジェレラ空軍中將は公務で不在となったが同副司令官ジェリー・ハリス空軍准将以下26名が、JAAGA からは吉田正会長をはじめ会員45名が競技に参加し、また日米双方各3名が競技の支援を行った。

5時前から参加者が集合し始め、クラブハウスでの朝食、懇談等の後、6時半から開会式が行われた。吉田会長からは「桜の咲き始めた多摩ヒルズの春を味わいながら、大いに日米相互の親睦を深めましょう」との挨拶があり、ハリス副司令官からも「この競技を通じて、親しい御付き合いの関係をさらに深めましょう」との挨拶があった。齊藤総隊司令官からの「3時間も早く起床し、スコアーも其のせいに出来るかも～」との英語によるユーモア溢れるスピーチに参加者の気分も和み、ナイス・ショットを念じて記念の集合写真を撮った後、7時を期して一斉に競技が開始された。

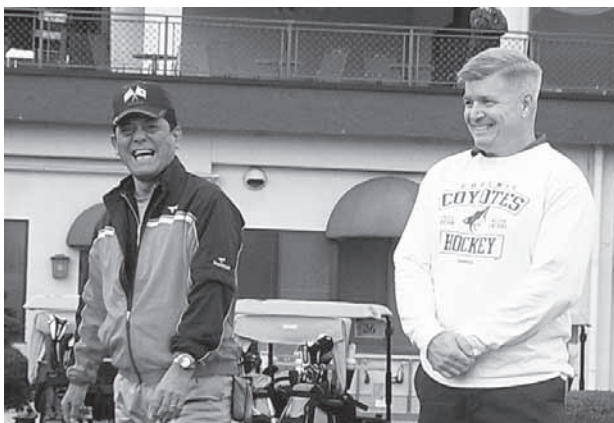
桜の咲き始めた暖かなコンディションの中、後半からは春の日差しを心地よく感じつつ、日米友好と会員間の親善を醸しつつ和気あいあいと競技が進行した。

競技終了後、プレーの内容を楽しく話題にしつつ昼食となった。昼食後、成績発表、表彰式が行われ、優勝、準優勝、第3位、ドラコン、ニアピン賞等各賞の他、特別賞としてJAAGA 会長賞、5空軍司令官賞及び航空幕僚長賞が贈られた。また、JAAGA 会長、5空軍司令官、空幕長の各賞をはじめ各種特別賞が贈られた。閉会にあたり、ハリス副司令官から「お陰様で水曜日の平日に日米友好のゴルフを楽しむ事が出来ました。ハワイのアンジェレラ司令官から何度も SPORTEX に参加出来ない残念さを感じられるメールが届きました」との話が披露され、中島空幕副長からは「練習を積んで次回またお会いしましょう」と来期の競技に想いを込めた挨拶があった。吉田会長からは「桜の開花に合わせ SPORTEX が盛会の内に終了したことを嬉しく思います」との閉会の辞があり、併せて米軍競技支援者と多摩ヒルズ・ゴルフ・コース関係者への御礼が述べられた。午後1時過ぎ、SPORTEX'12B は終了し、参加者は賞品や良き思い出をいただきながら陽光に包まれた多摩ヒルズ・ゴルフ・コースを後にした。

（杉山理事記）



Players in Sportex'12B: 109 JAAGA, JASDF, and USAF members, including President Yoshida, Lt. Gen. Saitoh, Lt. Gen. Nakajima and Brig. Gen. Harris, enjoy playing the golf in Tama Hills GC on March 20, 2013



Lt. Gen. Saitoh, and Brig. Gen. Harris



Party after the game. L-R: President Yoshida, Brig. Gen. Harris, (from behind left) Adv. Hokazono, Lt. Gen. Nakashima

横田基地賀詞交歓会

航空総隊司令部が横田基地に移転して初めての横田基地賀詞交歓会が、防空指揮群司令日吉章夫1等空佐の主催で、平成25年1月24日（木）昭島市昭和の森に所在するフォレスト・イン昭和館の“シンバル・ホール”で開催された。

空自側は航空総隊司令官齊藤治和空将以下主要メンバーが、米軍も第5空軍司令官サルバトーレ・アンジェレラ空軍中将以下主要メンバーが一堂に会する盛大な新年の宴となった。

来賓祝辞のトップバッターは、衆議院が解散中であったことから空自出身の参議院議員宇都隆史議員が務めたが、本人の晴れがましい気分がしっかり伝わってきた。また、横田基地周辺7市町の長もその祝辞では、航空自衛隊の横田基地とのこれからの関係についてユーモアを交えてそれぞれの想いを伝えていたのが印象的だった。

今後更に、横田基地における空自と米空軍の連携が深まり、基地と周辺自治体との信頼醸成が進展していくことを祈念したい。

JAAGA からは会長代理としての堀副理事長及び高橋、阪東理事が出席した。

（阪東理事記）



JASDF New Year's Reception at Yokota AB: Lt. Gen. Angelella and JAAGA members



Col. Hiyoshi, Col. August and the entertainers

JAAGA 講演会

—空幕運用支援・情報部長 丸茂空将補—



Maj. Gen. Marumo, Director of Operations Department, ASO, gives a lecture at the JAAGA meeting in Ichigaya on Feb. 21, 2013

平成25年2月21日（木）15時から約2時間にわたり、グランドヒル市ヶ谷において、航空幕僚監部運用支援・情報部長丸茂吉成空将補を講師としてJAAGA講演会が開催された。講師は最初にコープ・ノース・グアムに対する支援への感謝と、初めて人道支援、災害救援訓練に参加した事、及びエピソードとしてロシア軍機Tu-95が飛び入り参加（笑）したという話題を述べ、講演は和やかに開始された。今回は「対領空侵犯措置の現状」と題し、尖閣周辺における情勢とそこから生じる課題への取り組みについての内容が主であったため、会場に参加した正会員60名、法人会員等30名の計90名は、タイムリーかつ大変興味深い話題に熱心に聴き入り、時間ぎりぎりまで活発な質問がなされていた。

講師は防大27期生で、職域は操縦（F-4）。空幕防衛課長、次期戦闘機企画室長、第8航空団司令などを務めた後、昨年1月から現職で活躍中。

講演概要は、①最近の全般的状況、②法的位置づけ、③行動概要と体制、④尖閣諸島を巡る情勢、⑤課題と取り組み、⑥まとめ、という順に進められた。

①から③については、「正会員以外を対象に」と断った上で、領空と対領侵措置、防空識別圏、スクランブル回数、国際法上の位置づけ（領空主権の排他性）、国内法上の位置づけ（警察行動）、武器の使用（必要な処置）、武器の使用が撃墜に至った事例、我が国における信号射撃の事例（武器の使用ではない）、警戒管制部隊・戦闘機部隊の配置、対領侵措置の要領などを分かり易くかつ明確に説明。特にスクランブル回数については23年度が過去20年間で最多となる総計425回であった事、内訳は156回（約37%）が中国機に対するものであった事、中国機に対する緊急発進回数は、20年度31回、21年度38回、22年度96回、23年度156回、今年度が3／四半期までに既に160回であり過去最多である事を強調。

④から⑥については、2012年12月13日の、中国Y-12の領空侵犯事案について、海上保安庁の巡視船からの通報による緊急発進であった事、現場空域に到着したときには、領空から出た後であった事から、那覇から尖閣周辺まで400km以上ある事と低高度小型機への対応が課題であり、その取り組みとしてE-2CやAWACSによる監視の継続と海上保安庁との連携、日中ホットラインの設置等を挙げ、また、人的処置（充足）、警戒監視と対処等に必要な予算処置（25年度予算）、中長期的な課題への取り組みとして、次期大綱、中期防において処置されることが予測される事を説明。

最後にまとめとして、「日本が挑発を与えてきた」という口実を中国に与えないために、対応手順の明確化と徹底、緊急事態に対しての適切な対応、記録・証拠の収集、国際世論へのアピールなどいわゆる世論戦が重要と認識している事、日米同盟関係を万全な状態にするために、各種戦略協議や作戦計画の立案、共同訓練の実施などの他「JAAGAに期待しています」と締めくくった。

約1時間を越える講演に続き、質疑応答が行われた。聴講者からは、中国の警戒管制機の運用能力、中国軍の訓練規模、運用能力など、マスメディアを通じてだけでは知ることのできない中国軍の能力に関する質問が多く寄せられた。また、永岩理事長から、米中の3カ国シンポジウムに参加した際に、信

号射撃、防空識別圏について日米参加者が中国参加者に説明した経緯があったことから、中国軍人は国際的な常識を知らされておらず、メディア戦が重要である旨の発言があった。最後に、吉田会長から講師に対し謝辞があり、記念品が渡された。

(渡部理事記)



Maj. Gen. Marumo speaks on the trilateral exercise among Australia, the United States and Japan

賛助会員の三沢基地研修

JAAGA の法人及び個人賛助会員による三沢基地研修が3月7日（木）、8日（金）に実施された。個人賛助会員の田村実氏を団長とし、総勢21名が参加した。研修者は東京近傍からの他、遠く島根県や石川県からの参加者もいた。JAAGA からは森下、宮脇、古畑、阿部、金子各理事の他、三沢支部の丸山支部長、山本事務局長が研修支援のため随行了た。

研修初日は8時40分に入間基地に集合し、結団式の後11時頃 C-1で三沢に移動した。到着後すぐ、三沢基地の空自主要幹部との会食がもたれ、心のこもったおいしい食事に研修者の当初の緊張もまもなくほぐれたようであった。

午後からは、まず空自の研修が行われた。13時、団長以下代表4名が北部航空方面隊司令官若林秀男空将に表敬した後、司令官による北部航空方面隊や米空軍部隊の状況等に関する説明を受けた。話の中



Lt. Gen. Wakabayashi, Commander of Northern Air Defense Force briefs JAAGA members

で司令官から、1月からグアムで実施された日米豪共同訓練に対する JAAGA の支援や、三沢で2月に行われた日米隊員に対する表彰行事について感謝の言葉があった。



Talk with Maj. Gen Kidono, Commander of the 3rd Air Wing

続いて、第3航空団に場所を移し、団司令城殿保空将補への表敬後、監理部長金崎悟2等空佐のブリーフィングを受けた。15時から警戒航空隊のハンガーに移動し、E-2Cを間近に見ながら機体に関する詳細な説明を聞いた。15時40分からアラート・ハンガーにおいて、緊急発進の訓練展示を見学した。ふだんあまり立ち入ることのできない場所で、最先端の技術を満載した航空機や隊員のきびきびした動きに接し、研修者は大いに感激したようであった。

研修終了後、代表4名が米空軍第35戦闘航空団司令スティーブン・ウィリアムス空軍大佐を表敬し、歓談した。当夜の宿泊は、みんなも楽しみにしていた基地内の米軍外来宿舎「三沢イン」である。部屋

は堅牢で何から何までいささか大きめのサイズであり、いかにも米軍宿舎らしさを感じた。

18時から米軍オフィサーズ・クラブにおいて、JAAGA主催の夕食会が開かれた。空自からは若林北空司令官、城殿3空団司令、北部航空警戒管制団司令中原茂樹空将補等の基地主要幹部、米空軍からはウィリアムス団司令以下戦闘航空団主要幹部

が参加した。各テーブルからは時折大きな歓声や笑い声が上がり、会場は終始和やかなムードに包まれていた。

研修2日目は、午前中に米軍を研修した。9時から団司令部においてウィリアムス団司令から状況説明を受けた。その中で、団司令は米軍への理解を深めてもらうため地域との交流を重視していることや、JAAGAの日頃からの米軍に対する支援に感謝していることを述べた。9時50分からレクリエーション・センターにおいて軍用犬の訓練展示を見学した。よく訓練された軍用犬が米兵士の指示にすばやく反応し、不審者に襲いかかる様子に一同肝をつぶされた。展示の最後に研修者から警備犬にも階級はある



JAAGA members in front of E2-C in Misawa AB (JASDF)

のかという大まじめな質問に、その場に居合わせた全員が大笑いとなり、にこやかに展示場を後にした。続いて格納庫に移動し、米兵士3名による迅速なF-16の兵装訓練展示を見学した。会場には最先端をいくミサイルや爆弾も展示され、またF-16のコックピット内部まで見せてもらい、研修者にはまたとない貴重な機会となった。

ウィリアムス団司令を交えたオフィサーズ・クラブでの最後の昼食には、大きなサンドイッチが出され、みな頑張っかぶりついていた。会食の終わりにウィリアムス団司令から団長にF-16をバックに全員で撮った記念写真が贈られた。その後、研修者はお土産などの買い物を済ませ、北空司令官や団司令等の見送りを受けながら、14時U-4×2機に分乗し三沢基地を飛び立った。

今回の研修は、空自及び米空軍ともに実に行き届いた配慮をいただき、研修団にとっては実り多い有意義な研修となったのではないと思う。研修終了後、一部の参加者からは早速研修所感のメールをいただいたが、いずれもいい経験になった、日米空軍の関係者全てに感謝したい、という内容であった。最後に、ウィリアムス団司令からJAAGAへの感謝のメッセージを紹介して記事を終わりにしたい。これは宿泊した三沢インの部屋に置かれていた団司令からの心

のこもったグリーティング・カードの一部である。

I want to thank all the JAAGA member for your continued support. Your efforts help promote a stronger friendship between JASDF and USAF.



Guard dog training

Thank you again for helping to make Misawa Air Base the best joint / bilateral military community in the Pacific.

(私は、JAAGA 会員の皆様の日頃からの支援に感謝したいと思います。皆さんの活動は、空自と米空軍の友好をより強固なものにすることに役立っています。ここに、三沢基地が太平洋地域でも最高の日米協同の基地となるために支援していただいていることに改めて感謝致します。)

(古畑理事記)



JAAGA members with Col. Williams, Commander of 35th Fighter Wing in front of F-16 in Misawa AB

平成25年度事業予定表

項 目	実施時期											
	1 / 四半期			2 / 四半期			3 / 四半期			4 / 四半期		
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 日米隊員の激励等	(1) 日米共同訓練参加隊員の激励等 (2) 日米隊員の表彰 (3) 日米隊員の交流活動等激励											
2 米空軍軍人の日本研修等支援	(1) 米空軍軍人の日本文化研修支援 (2) 米空軍軍人の地域行事等支援		○横田			○三沢			○嘉手納			
3 JAAGA と空自・米空軍との交流	(1) SPORTEX'13 (2) 指揮官交代行事等への出席等 (3) 米空軍協会総会への参加 (4) 在日米空軍各基地との連携の強化 (5) 米空軍慶弔への対応 (6) 関係団体との交流					○						
4 広報及び広報協力	(1) 日米要人等の講演 (2) 米軍基地等の研修 (2) 日米安保等に関する広報活動 (3) 会報「だより」の発行・配布 (4) 一般広報 (HP の運営等)	○		横田				○		○		
5 総会等												
6 運営管理	(1) 会勢の拡大等・会員の拡充 ・支部の活性化等 (2) 組織基盤の整備等 (3) 会員名簿の作成・配布 (4) 役員会(★)・理事会(☆) (5) 監査	☆	☆	★	☆	★	☆	☆	★	☆	☆	★
	○前年度分											

凡例： ←→ 年間を通じて実施 実施時期未定

平成24年度決算報告

(単位：円)

収 入			支 出		
区 分	予 算 額	執 行 額	予 算 科 目	予 算 額	執 行 額
前 年 度 繰 越	6,132,165	6,132,165	事 共同訓練激励費	600,000	506,624
年 会 費	3,756,000	4,008,173	表 彰 関 係 費	450,000	461,945
利 息	1,000	1,057	業 友好親善行事費	970,000	776,270
寄 付 金	0	0	広 報 費	1,350,000	1,017,403
雑 収 入	—	0	費 総 会 費	600,000	859,332
			小 計	3,970,000	3,621,574
			入 会 活 動 費	60,000	85,400
			名 簿 関 係 費	120,000	118,580
			役 員 会 運 営 費	230,000	204,036
			支 部 運 営 費	120,000	120,420
			事 務 所 運 営 費	170,000	120,420
			事 務 通 信 費	130,000	84,000
			小 計	830,000	732,856
			20周年行事積立金	600,000	600,000
			予 備 費	200,000	0
			支 出 計	5,600,000	4,954,430
			翌 年 度 繰 越	4,289,165	5,186,965
合 計	9,889,165	10,141,395	合 計	9,889,165	10,141,395

平成25年度予算

(単位：円)

収 入		支 出	
区 分	予 算 額	予 算 科 目	予 算 額
前 年 度 繰 越	5,186,965	事 共同訓練激励費	600,000
年 会 費	3,986,738	表 彰 関 係 費	450,000
利 息	1,000	業 友好親善行事費	970,000
寄 付 金	—	広 報 費	1,350,000
雑 収 入	—	費 総 会 費	600,000
		小 計	3,970,000
		入 会 活 動 費	60,000
		名 簿 関 係 費	120,000
		役 員 会 運 営 費	230,000
		支 部 運 営 費	120,000
		事 務 所 運 営 費	170,000
		事 務 通 信 費	130,000
		小 計	830,000
		20周年行事積立金	600,000
		予 備 費	200,000
		支 出 計	5,600,000
		翌 年 度 繰 越	3,574,703
合 計	9,174,703	合 計	9,174,703

役 員 の 選 任

職	名	氏 名
会	長	吉田 正
副	会 長	永岩俊道 (新)、堀 好成 (新)、永田久雄 (新)
理	理 事 長	小川剛義
	副 理 事 長	織田邦男
	企 画	上田完二 (再)、戸田友敬、森下 一、長島修照、渡邊至之、彌田 清 (新)、谷野淳一 (新)、
	総 務	射場義彦 (再)、野田耕平 (再)、飯田雅典 (再)、糸永正武、狩集貴尚 (新)、秦啓次郎 (新)、福井正明 (新)、
	渉 外	菊川忠継、阪東政詮 (再)、新井洋一 (再)、高橋健二 (再)、辻 章嗣 (再)、桃木正幸、宮脇俊幸 (再)
	会 員	松田和彦 (再)、金子康輔 (再)、木村 孝、早坂 正 (新)
事	広 報	山本康正 (再)、杉山伸樹、渡部憲政
	財 務	山崎剛美 (新)、田中和之 (再)、池田 勝 (再)、阿部英彦
	ホームページ	四ッ家邦紀
監	事	源外志明、藤井泰司 (新)
	支 部 長	丸山 泰 (三沢) (再)、石津 靖 (沖繩)
	支部事務局長	山本親男 (三沢)、名富忠夫 (沖繩)

注：再は再任、新は新任

【退任】副会長：北村善信、香川清治、稲葉憲一

監 事：鈴木直人

理 事：鬼塚恒久、石渡幹生、原田千敏、美馬 博、古畑 徹

新入会員紹介

1 正 会 員

氏 名	住 所	氏 名	住 所
伊 藤 典 子 氏	東京都目黒区	坂 外志雄 氏	石川県小松市
福 井 正 明 氏	東京都府中市	秦 啓次郎 氏	埼玉県戸田市
早 坂 正 氏	埼玉県狭山市		

2 個人賛助会員

氏 名	住 所	氏 名	住 所
天 野 慎 一 氏	埼玉県朝霞市	小 松 健太郎 氏	東京都府中市
新 道 登 氏	石川県小松市	志 村 治 夫 氏	東京都多摩市
石 山 健 一 氏	東京都調布市		

3 法人賛助会員

氏 名	住 所	代表者
株式会社クラレ 様	千代田区大手町	杉 本 佳次朗 氏

会 員 募 集

今期は関係各位のご努力で正会員5名、個人賛助会員5名合計10名及び法人賛助会員1社の入会を得ることができました。会勢拡張目標を正会員300名、個人賛助会員50名、法人賛助会員50社と定め精力的に活動しておりますが、正会員数が244名（25.5.13現在）、法人賛助会員42社と目標にはるかに至っておりません。

今後とも、会員の皆様の勧誘、推薦、情報提供に関するご協力、ご支援を是非とも宜しくお願い致します。なお、個人賛助会員の入会につきましては、次のとおりです。

推薦若しくは情報提供を頂いた方には直接会員担当係から連絡させていただきます。

【入会資格】

正 会 員：航空自衛隊の OB

個人賛助会員：航空自衛隊の OB 以外の方で、正会員3名の推薦が必要です。

【連絡先】

○郵便 〒162-0842 新宿区市谷砂土原町1-2-34 KSK ビル3F
日米エアフォース友好協会 会員担当 行

○（会社）メール、電話

松田 和彦：kazuhiko_matsuda@mhi.co.jp	03-6716-4433
金子 康輔：kkaneko@mpcnet.co.jp	03-5531-8061
米沢 敬一：keiichi_yonezawa@mhi.co.jp	03-6716-4327
木村 孝：t-kimura@fq.jp.nec.com	03-3456-9762

編 集 後 記

◇年次総会における会長挨拶にもありましたが、予断を許さぬ北東アジアの情勢下にあって、空自と米空軍、ひいては日米両国の信頼関係の醸成が今まさに必要とされており、JAAGA の活動は、ますますその真価を問われていると思います。

◇44号においては、このような状況に鑑み、現場における活動の様子をより分かり易くお伝えするため、写真を多く掲載することと致しました。

◇指揮官名、階級等は、記事当時のものです。

◇だより編集員一同、今年後半も JAAGA の活動を地道にフォローしたいと思いますので、会員の皆様のご支援をよろしくお願いいたします。
(編集子)



JASDF service members cheered by encouragement goods from JAAGA



Aircrafts and service members who participated in the Cope North 2013